

# 八戸港を活用したモーダルコンビネーションの推進

協議会名：八戸港国際物流拠点化推進協議会

協議会構成員  
八戸市、青森県、八戸港振興協会、(株)青森みちのく銀行、  
青い森信用金庫、地域物流会社複数社

【事業実施背景】  
青森県発着の貨物の大半が首都圏へのトラック輸送に依存しているなか、将来的なドライバー不足や「物流の2024年問題」による輸送力低下が懸念されており、八戸港を活用したモーダルコンビネーション(※)を推進していくため、本事業への参画に至った。  
(※)複数の輸送手段を組み合わせることで、輸送の最適化・効率化を図ること

事業内容

Point

青森県～首都圏の輸移出入貨物の輸送を船舶輸送に転換するモーダルシフトの実現を目指し、ドライバーの運転時間及び距離、かつCO2排出削減を推進。

従来

青森県内の貨物

陸上輸送

京浜港など

コンテナ外航船

海外との輸出入

事業計画

青森県内の貨物

陸上輸送

八戸港

コンテナ内航船

京浜港など

コンテナ外航船

海外との輸出入

RORO船

国内との出荷・入荷

陸上輸送

想定事業実施効果

【ドライバー運転時間省力化(片道)】  
8時間30分 → 2時間  
66.5%削減

【ドライバー運転距離省力化(片道)】  
670km → 120km  
82.1%削減

【環境負荷削減への対応】  
40ftコンテナ1本が京浜港までの陸送から八戸港にシフトした場合、推計値でCO2が約0.6トン削減される効果を見込む。